

## 規制委 高浜原発「新基準適合」

# 県議長「いい方向性を」

原子力規制委員会が関西電力高浜原発3、4号機の審査書案を了承した17日、県議会が同原発を視察した。田村康夫議長は、関電へのあいさつの中で「（今の県議会の）任期の間に、いい方向性を出したい」と述べ、統一地方選がある来年4月までに、県議会として再稼働に同意する可能性を示唆した。

## 再稼働同意 可能性を示唆

視察したのは、原発立地地域選出議員を中心にした超党派の12人。出迎えた関電原子力事業本部長の豊松秀己・副社長は「国のエネルギー基本計画でも原子力発電は重要なベースロード電源と位置づけている。私どもはエネルギー保障、経済性、環境問題の観点から

一定の割合で原子力を進めていく必要があると考えている」とあいさつした。

関電側は、炉心が損傷して全交流電源が失われた場合でも、原子炉格納容器を冷やす設備に海水を通せるよう部品を取り換える訓練などを県議側に披露した。質疑応答では、県議側から



重大事故に対応する訓練を視察する県議ら＝高浜町の関西電力高浜原発

使用済み核燃料の中間貯蔵施設の候補地選定の進み具合や、運転開始から40年を

超えた高浜1、2号機の安全対策について質問が出たという。

視察後、田村議長は報道陣の取材に応じ、「防潮堤、電源対策など二重三重のハード面はすばらしい。しっかりしていただいている」と関電の取り組みを評価。3、4号機の再稼働については「今の議員の中で、了解を取れたらいいな、と。良い結論を見いだせたらいいと、個人的に思っている」と述べ、4月までに地元県議会として議論し、同意する可能性を示唆した。

西川一誠知事もこの日、「規制委は残る手続きの日程を明確にし、遅滞なく進めるべきだ。国は責任あるエネルギー政策を揺るぎなく実行すべきだ」と再稼働に前向きなコメントを発表した。

（山田理恵、堀川敬部）